

再生願い10月NZで日米合唱祭

日米の合唱団体が集い、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復興を誓う「第二回カーネギー日米合唱祭」「福島から世界へ」が十月十九日（現地時間）に米国ニューヨークで開かれる。本県から県おかさん合唱連盟（三宅祐子会長）が出演、音楽の殿堂・カーネギーホールで「そして、春へ福島から世界へ」などを披露する。連盟の参加を橋渡しした福島民報社はメンバーを「うつくしま特別復興大使」に委嘱する。美しい歌声とともに、復興の歩みを進める本県の今を世界に発信する。



「そして、春々福島から世界へ」を合唱する田
おかあさん合唱連盟の会員=昨年10月、矢吹町

県おかあさん連盟 出演



ニューヨークでの公演の抱負を語る二宅会長

通じて、東日本大震災と東電福島第一原発事故からの復興を後押ししようと、NPO法人「9・11風の環コンサート」代表で実家がいわき市にある白田正樹さん(53)がユーチューバーク在住」が企画した。第一回は平成二十三年五月に開かれた。

月、矢吹町で催され
県おかあさん合唱祭
視察した。連盟の三
会長らに「福島県が
参加することが福島
今を伝えることによ
る」と訴えた。

民報社 橋渡し 特別復興大使に



※ カーネギーホール ニューヨークのマンハッタン。1891年の創設。クラシックやポピュラー、コンサートが数多く開かれる音楽の殿堂。メインホールアイザックスターン大ホールは2800人収容。

生を願い、俳人の黛まだかさんが作詞、作曲家の千住明さんが作曲した「そして、春…」し、バッハ作曲「アヴェ・マリア」などを一緒に歌う。

県民の思い、現状発信

県だかあさん合唱連盟の出演は、白田さんは、福島民報社が昨年、創刊百二十周年記念事業として、コンクールの入賞者二十七人を委嘱した。五輪開催中の英國ロンドンをはじめ、本県を除く全国四十六都道府県に大使を派遣した。

県だかあさん合唱連盟を紹介した。

福島民報社は合唱連盟の参加者に「うつくしま特別復興大使」として、県民の思いや本県の復興の現状を発信実施した「ふくしまかみのメッセージ」コンクールの審査員を務め本県関係者の参加を呼び掛けたことがきっかけ。黛さんと千住さんは、福島民報社が昨年実施した「ふくしまかみのメッセージ」コンクールの審査員を務め

元気な歌声で恩返し

ネギーホールで演奏するチャンスはそうあるものではないと思い、出演を決めた」とを訴えたいか。

「合唱の力は大きい。歌うことでも元気をもった会員もある。福島県民の元気な姿を見ることで、支援をしてもらつたことへの恩返しになればと思う」

「本番への意気込みは、「県民の代表としてステージに立とう」と思っていられる。東北人の強さ、優しさなどを歌で表現したい。歌を通してこれまで以上に日本米の絆を強くしたい」

県おかあさん合唱連盟 三宅会長に聞く

県おかあさん合唱連盟
三宅祐子会長は日米合唱への思い、意気込みを語り、合唱を通し福島の元気な音楽アピールすることを誓った。

盈の祭唱
り姿は書つ
ネギーホールで演奏するチャンスはそうあるものではないと思い、出演を決めた
一歌を通して、どんなことを訴えたいか。
「合唱の力は大きい。歌うことと元気をもった会員もいる。福島県民の元気な姿を見せてることで、支援をしてもらつたことへの恩返しになればと思う」
一本番への意気込みは、「県民の代表としてステージに立とうと思ってい
る。東北人の強さ、優しさなどを歌で表現したい。歌を通じてこれまで以上に日本
米の絆を強くしたい」

県おかあさん合唱連盟
三宅会長

県おかあさん合唱連盟
三宅祐子会長は日米合唱への思い、意気込みを語り、合唱を通し福島の元気や力をアピールすることを話した。

感想は、「最初は驚いたが、主に出演を求められた時

盈の祭唱
り姿は書つ
ネギーホールで演奏するチャンスはそうあるものではないと思い、出演を決めた
一歌を通して、どんなことを訴えたいか。
「合唱の力は大きい。歌うことと元気をもった会員もいる。福島県民の元気な姿を見せてることで、支援をしてもらつたことへの恩返しになればと思う」
一本番への意気込みは、「県民の代表としてステージに立とうと思ってい
る。東北人の強さ、優しさなどを歌で表現したい。歌を通じてこれまで以上に日本
米の絆を強くしたい」